

勝負に挑む男の心意気が 迸り出る、大演歌の誕生

村田英雄『王将』

昭和歌謡

誕生物語

第③曲目 文：山川晋

村田英雄は道い込まれて、
だが、「男」を道面もなく
吐き出し続ける希有な歌手を
天は見放さなかった

昭和36年だった。

用意されていたのは「王将」
背水の心構えであった

この歌のヒットなくして
俺の歌手人生はない

伊藤大輔監督の「王将」に
想を取った下演歌「王将」
この曲のメロディーに

その曲の歌詞の情緒に
村田は己の心を見た

吹けば飛ぶよな橋樑の駒に
賭けた命を笑えば笑え……

将棋の駒は己自身であった

村田は男の心情を唄った

男の心情は村田の心情でもあった

歌はミリオンセラーとなり

「男」は村田の代名詞となった

「王将」は紅白で4回も唄われ

村田死すとも、この歌で生き続けた

「太平洋ひとりぼっち」
で知られる冒険家・

堀江謙一氏が単独で太平洋を
横断中、寂しさを紛らわすた
め、よく口ずさんだのが、昭

和36年1月にリリースされ1
50万枚の大ヒットを記録し
た村田英雄の「王将」だった。

村田は7歳で浪曲師・酒井
雲の直弟子になり、天才浪曲

少年と呼ばれた(芸名は酒井
雲坊)が、昭和33年、古賀政男

にスカウトされ29歳で流行歌
手に転身。しかし、古賀との

コンビで発売した「無法松の
一生」はほとんど売れず3年

あまり芽が出なかった。

村田といえは、浪曲師時代
から永遠のライバルとして知

られるのが南條文若(三波春
夫)の存在だ。二人は浪曲の全

国大会でたびたび対戦するも、
結果はいつも村田の圧勝で、

三波はどうしても村田に勝つ
ことができなかった。そこで

三波は芸名を「三波春夫」と改

め歌謡界へとデビュー。する
と、「お客様は神様です！」と

いうフレーズと共に天性の明
るさが多くファンを魅きつ
け、出す曲、出す曲、すべて
が大ヒット。NHK紅白歌合
戦では毎年のようにトリを務
めるまでになっていた。

それを横目に、「やっぱり俺
には歌謡界の水は合わない、
浪曲の世界に戻ろう」とそう決
心した村田は、師匠である古
賀に歌謡界を辞めたい、と申

し出る。だが、古賀は烈火の
ごとく激昂。村田を殴りつけ
た後、破門同然で絶縁を言い
渡すことになったという。

ところが、捨てる神あれば
拾う神あり。村田と古賀との

やりとりを一部始終見ていた
作曲家がいた。それが、美空

ひばりの「みだれ髪」などの作
曲で頭角を現していた船村徹

だった。浪曲で鍛え上げた村
田の重厚な声は古賀の曲調に

は合わない、そう考えた船村

が失意の村田に贈った曲が
「王将」(作詞：西条八十)だった。

ちなみに「王将」のイントロ
にある打鐘(ジャン)の音はレ
コーディング前、船村が宇都
宮の競輪場で耳にしたその響
きと、何が何でも勝たねばな
らぬという歌詞が頭の中で
ビタリと同化し、「この曲の始
まりは、打鐘以外に考えられ
ない」ということから、挿入さ
れたのだとか。

勝負にかける意地と闘志を
見事に描きだした詞と曲の素
晴らしさに加え、まるで男歌
の手本のように歌い上げる村
田の歌唱。多くの日本男子を
勇気づけた「王将」は、そんな
男演歌の代表曲となった。■

Yamamoto Chū

1962年東京生まれ、テレビ制作会社
制作部長を経てフリーランスに。
著書に「東方神起の真実」(東方神起
「1Y1」をゆく)、(共にイーストプレス)、
「ヒューマンドキュメントをせよ」(ヒューマン
ドキュメント)、(共にイーストプレス)、
また、出版プロデュース作品として
「生きる 遺書(スティーブ・ブレイク)」、
「アキの社員」(狂気ギヤル)(共にイースト
プレス)などを執筆。

